

平成26年度 事業計画書
(2014年4月1日～2015年3月31日)

公益財団法人 アサヒグループ芸術文化財団

平成26年度事業計画書

多様な創造力の発露である芸術文化活動を総合的に支援振興するために、芸術機関への助成、国際交流事業への助成を含め、美術・音楽・舞台芸術の分野での有効適切な助成活動を行うとともに、芸術資産を生かしながら芸術創造の支援をするため、アサヒビール大山崎山荘美術館の運営等の文化事業を行っている。

25年度から、助成対象者を絞り込み、1件当たりの助成額を増やすことにしたが、本年度も同様とし、各芸術活動への貢献度を高めたい。また、授与式を開催し、助成者同士および選考委員の各専門家の先生方との意見交換の場とする。さらに、選考委員および事務局による活動、公演の視察、評価を実施し、助成の効果を一層高めていく。こうした取り組みを進めることによって、助成先の満足度を高め、事業内容の評価を一層高め、財団の使命を達成していきたいと考えている。

また、地域文化の振興に一層寄与するため、アサヒビール社と連携して全国の市民グループやアートNPOと共同で開催している、「アサヒ・アートフェスティバル」は本年13回目を実施する。本年は日本国内のみならず、韓国を含めた60か所で、地域に根差したプログラムを展開する予定である。グローバルな活動、発信にも着手、海外の芸術活動団体と交流し、文化を通じた相互理解の促進をめざす。

平成21年度から実施している「すみだ川アートプロジェクト」も、本年は「江戸の食」をテーマに実施、周辺地域の団体と連携を深め、江戸の下町文化を発信していく。

アサヒビール大山崎山荘美術館の運営については、新設後の諸施設の細かな調整も完了し、これまで以上にお客様満足度を一層高めることに努力をしていく。入場者数がここ1,2年低迷してきており、HPの一新や広報活動の積極展開をはじめ、魅力的な展示を実施し、挽回を期す。地域との連携をさらに強化し、地域に開かれた美術館を目指していきたい。

平成26年度は、下記の事業を実施したい。

1. 芸術文化活動への助成

1) 美術・音楽・舞台芸術活動への助成

各部門には、芸術文化活動団体（NPO、文化施設、文化機関等）の助成、芸術家等の国際交流活動への助成も含む

2. アサヒビール大山崎山荘美術館の運営

地域の教育文化施設、機関との連携を促進しながら、所蔵品や建物、自然環境等の資源を活用しながら、新たな文化価値の発信をめざした大山崎山荘美術館ならではの魅力溢れる企画展示を4回実施する。また、地域の小中学校での出前授業をはじめ、展覧会にとどまらない多様な企画の拡充を図る。

3. アサヒビール社と連携した事業の運営

1) アサヒ・アートフェスティバル2014

2) すみだ川アートプロジェクト2014

これらの分野を合わせた助成金額の総計は47,200千円を予定している。財団活動の効果的な運営のため、昨年度に引続き、選考委員を中心とした助成活動の調査・検証活動の一層充実を図る。助成対象者と選考委員の交流の場ともなる授与式を本年も実施し、助成対象者の意欲と意識の高揚を図る。

また、美術館については、広報宣伝活動を強化し、閑散期の入館者増をはかりコンスタントな運営を実現するとともに、財団とアサヒビールの文化活動との連携を一層強化し、企画展の魅力度をアップさせ、若者、女性など新規の来館者の増加を促進する。

無駄な経費削減に努め、事業部門での収入増を図り、収支バランスに努める。

主たる事業の計画

1. 芸術文化活動への助成

平成 25 年度に開催した選考委員会の答申に従い、総計 566 件(前年 522 件)の案件に対して、総額 25,000 千円の助成を実施する計画。その内訳は、以下の通り。

1) 美術・音楽・舞台芸術活動への助成

美術部門では、13 件の案件に対して、総額 8,600 千円の助成を実施する計画。

<主たる助成先>

PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭 2015

国東半島芸術祭

ARTSAT 衛星芸術プロジェクト

など

音楽部門では、13 件の案件に対して、総額 8,100 千円の助成を実施する計画。

<主たる助成先>

芥川也寸志メモリアルオーケストラ・ニッポニカ 25 回、26 回演奏会

フェスティバル FUKUSHIMA 2014

アンサンブル・ノマド定期演奏会「再生へ Vol. 1-3」

など

舞台芸術部門では、14 件の案件に対して、総額 8,300 千円の助成を実施する計画。

<主たる助成先>

東京 - テルアビブ ダンス交流プロジェクト

日仏共同企画「キャバレー～何が起こるか分からない～」(仮題)

“blanker slot”(仮題)

など

2. アサヒビール大山崎山荘美術館の運営

京阪神地区への広報宣伝活動をより一層強化して、認知度の向上をはかるとともに、地域の大学や企業に働きかけ、若者や女性の新規来館者の増加を図っていく。具体的には、国立大学や企業との連携や旅行業者との提携を推進していくことにしている。

また、ホームページを一新し、入りやすい、わかりやすい、外国の方にも親切な内容と

する。

26年度は、4月19日から「野口哲哉の武者分類図鑑展」を皮切りに、「夏季・所蔵名品展」「秋冬季・所蔵名品展」と1月17日から「志村ふくみ展」の計4回の企画展を計画しており、各地の美術館と連携しながら、所蔵品を中心として美術館の特徴を生かした個性溢れる展示を展開していく。

また、学芸員の研修、研究活動を強化し、所蔵作品や作家の知識を深め、企画展に反映させていくのはもとより、作品の適切な保管、保存に努め、必要な修繕も実施する。

本年は、来館入場者数の目標は、80,000人とし、地域と連携し地域に開かれた美術館として、独自の地位を確立することを目指す。

3. アサヒビール社と連携した事業の運営

財団は、本年もアサヒビール社と連携し、次の2つのメセナ事業を助成、実施する。

1) アサヒ・アートフェスティバル

全国各地の市民グループやアートNPO等との連携によって推進しており、本年度で13回目を迎える。文化による地域振興、パートナーシップ型メセナ、10年を超える継続したアートプロジェクトとしての実績評価等、様々な観点から注目されている。

今年は6月14日から10月13日まで、146件の応募の中から選ばれた60のプログラムを各地（日本+韓国）で実施する。ネットワーク拡大に対応するべく、検証、並びにモニタリングの仕組みを見直し、また、AAFに蓄積された実績、スキル、ノウハウやネットワークを活かしてAAF学校（アートマネジメント学校）を組み立て、自らの価値観を持ち、アートプロジェクトを他者に伝える力を持つ、つなぎ手育成の場を創出する。

世界ネットワーク・プロジェクトでは、内在された既存ネットワークの顕在化によるインパクト訴求、並びに海外の団体との交流・相互理解によるグローバルな活動発信に着手。報告会を大分県別府市で開催し（東京以外での開催は初）、アサヒビール社事業場との連携も強化し、発信力をさらに強めていく。

当該プロジェクトの実施にあたっては、15,000千円の助成を実施する。

2) すみだ川アートプロジェクト

2009年度に開始した「すみだ川アートプロジェクト」は、本年6回目を迎える。本年は、6月14日から7月31日まで実施し、テーマは「江戸の食」。開かれた形で実行委員を組織し、企画立案する。公募による多彩なプログラムを40日間以上、日替わりで実施。また、アサヒ・アートスクエアを拠点としつつも、隅田川流域の寺社、まちなか等が開かれた形で開催することで、地域からの発信力を強化する。

昨年より本格的にスタートした、地元の活動団体との連携は継続。将来的に、地域に根付くことを目指してプログラムを地元住民とともに開発し、実施する。

当該プロジェクトは「すみだ川アートプロジェクト実行委員会」とともに財団が主催。予算は昨年度同様 7,000 千円にて実施する。

主たる事業の日程

年	月	日	項目	摘要
26	4	19	大山崎山荘美術館 企画展	「野口哲哉の武者分類図鑑」(～7/27)
	6	5	定時理事会・評議員会懇談会	平成25年度事業報告書、決算報告書の承認
	6	5	平成26年度 助成金授与式	
	6	上旬	財団案内	平成25年度版の作成
	6	下旬	定時評議員会	平成25年度事業報告書、決算報告書の承認
	6	14	アサヒ・アートフェスティバル	60ヶ所(日本+韓国)にて、公募PJを中心に展開(～10/13)
	6	14	すみだ川アート・プロジェクト	「江戸を遊ぶ - 江戸の食」(～7/31)
	8	2	大山崎山荘美術館 企画展	「夏季・所蔵名品展 (仮題)」(～10/5)
	10	1	助成公募開始	
	10	11	大山崎山荘美術館 企画展	「秋冬季・所蔵名品展 (仮題)」(～1/12)
27	1	17	大山崎山荘美術館 企画展	「志村ふくみ展」(～3/15)
27	1	中旬	芸術活動助成選考委員会	芸術活動助成案件の選考
	3	上旬	理事会	平成27年度事業計画、収支予算の承認 助成先を決定

以上